地域協働型で実施するジャンボタニシ駆除技術の開発
～餌と溝で端っこに寄せてみんなで捕獲～

自然・環境マネジメント研究部　生態研究グループ　三橋 弘宗

通称「ジャンボタニシ（和名:スクミリンゴガイ）」は、南米からやってきた水田に生息する外来生物です。世界ワースト100にも掲載され、イネの食害だけでなく、貴重な在来植物まで食べます。さらに、住血吸虫などの病気を媒介するほか、駆除のための農薬散布や農家のコスト増大など、各方面に大きな影響を及ぼします。現在、県内では淡路島、播磨地域を中心に分布が拡大していますが、これまで丹波地域での侵入は未確認。しかし、2018 年頃から丹波市市島町にて生息が確認され、2020 年には大発生し農業被害が顕在化。当該地は、この種の分布北限で日本海側の流域に位置するため、放置すると日本海側の水田にまで影響が拡大するため、緊急対策が必要となります。これを受けて、2021 年度から地元自治会と一緒に駆除を進めています。

研究では、ジャンボタニシが岸際の深みや米ぬか等を好む性質を定性的に明らかにし、その特性を利用し、溝や畦ぎわの深みをつくり、餌を使って誘引して、定期的な駆除と地域による散発的な捕獲も加わることで駆除効率を高めました。また、捕獲効率向上と再生産を抑制するため、大型個体のみ採集。その結果、根絶できた水田のほか、当初推定個体数と比較して、約 0%～ 24%まで減少できました。